

広陵町地域公共交通活性化協議会 (ネットワーク全体の評価)

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

○地域特性

奈良盆地の中西部に位置し、東は三宅町及び田原本町、南は、橿原市及び大和高田市、西は香芝市及び上牧町、北は河合町と接している。奈良県の中心都市である奈良市へは直線距離約 20km、近畿圏の中核都市である大阪市へは約 30km の距離にある。

・人口

令和 4 年 (2022 年)	35,284 人 (令和 4 年 12 月末日現在)
令和 12 年 (2030 年)	34,325 人 (推計)
令和 22 年 (2040 年)	33,272 人 (推計)
令和 27 年 (2045 年)	32,668 人 (推計)

・面積

16.30k m²

・高齢化率

令和 4 年 (2022 年)	26.6% (令和 4 年 12 月末日現在)
令和 12 年 (2030 年)	28.8% (推計)
令和 22 年 (2040 年)	32.3% (推計)
令和 27 年 (2045 年)	33.2% (推計)

高齢化率は、令和 22 年 (2040 年) にピークとなり、それ以降減少傾向となる。

※将来人口及び高齢化率は第 2 次広陵町人口ビジョンから引用

・産業構造 (就業人口構成比)

第 1 次産業 1.6%、第 2 次産業 25.4%、第 3 次産業 69.3%、分類不能 3.7%

※令和 3 年度 (2021 年度) 広陵町決算カードから引用

○公共交通の現状

・鉄道

北部地域に近鉄田原本線の箸尾駅 1 駅のみであり、鉄道不便地域である。

・路線バス

真美ヶ丘地域を中心に 7 路線運行している (うち、高田新家線及び高田イオンモール線の 2 路線は運行費補助を行っている。)

・変遷

平成 15 年度 (2003 年度) ~ 平成 21 年度 (2009 年度) 既存路線バスの休廃止

平成 21 年度 (2009 年度) コミュニティバス「広陵元気号」運行開始 (デマンド)

平成 24 年度 (2012 年度) 定時・定路線へ変更

平成 26 年度 (2014 年度) 路線バスの運行費補助

(高田新家線、高田イオンモール線)

平成 28 年度 (2016 年度) 広陵町地域公共交通網形成計画の策定、有償運行開始

平成 30 年度 (2018 年度) 広陵元気号運行再編実施計画策定

令和元年度（2019年度） 再編運行開始（支線の運行ルートの見直し、運賃改定）
令和3年度（2021年度） 広陵元気号南部支線再編
（令和3年度（2021年度）10月から運行開始）
令和3年度（2021年度） 広陵町地域公共交通計画策定

○将来像

「～笑顔で出かけられるまち～」
誰もが移動に不満・不安を感じることなく目的を達成できるまちをめざす。

○基本方針

方針1：安全・快適で実用的な公共交通網の形成
方針2：環境にやさしく、健康な移動手段である公共交通の利用促進
方針3：住みたい・暮らし続けたい広陵町を支える公共交通網の形成

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添のとおり

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

○評価の基本的な考え方

P D C Aサイクルによる評価、改善の仕組みを実施する。また、評価は、広陵町地域公共交通網形成計画（以下「網形成計画」という。）で定めた数値目標と実績値の比較に加えて、各事業の実施状況の成果についても対象とする。

網形成計画については、令和3年度（2021年度）に計画期間が終了したため、最終評価及び検証を行った。

令和4年度（2022年度）以降は、「広陵町地域公共交通計画」で定めた数値目標と実績値の比較に加えて、各事業の実施状況の成果についても対象とする。

○評価の実施主体

広陵町地域公共交通活性化協議会

○事業の実施方法及び目標達成状況の評価

- ・各事業の実施状況を毎年度評価する。実施スケジュールに対して的確に実施しているかどうか、どのような実施効果があったか、改善すべき事項などについて毎年度評価する。
- ・目標値との比較により、施策の達成状況を検証する。アンケートが必要な項目については、総合計画の施策評価実施時等にあわせて実施する。
- ・利用状況や目標達成状況を踏まえ、達成状況が順調でない場合と判断される場合には、その原因を探り、改善策等を検討・実施する。必要に応じてバス交通のルート、ダイヤ、運行方法等を見直し、改善を図る。
- ・令和3年度（2021年度）が網形成計画の最終計画年次であるため、網形成計画に定めた全ての事業の実施状況及び目標の達成状況について、最終評価及び検証を行い、その内容を踏まえて「広陵町地域公共交通計画」を策定した。

○評価・改善スケジュール

令和 3 年度（2021 年度）が網形成計画の最終計画年次であり、平成 30 年度（2018 年度）には中間の評価・改善を行い、令和 3 年度（2021 年度）には最終評価を行い、当該計画を更新するかたちで、広陵町地域公共交通計画を策定した。

○広陵町地域公共交通計画の評価項目と目標値

別添のとおり

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

令和 4 年（2022 年）3 月に広陵町地域公共交通計画を策定し、めざすべき将来像の実現に向けて、当該計画に基づく事業実施に向け検討している。実施事業の評価を適切に行い、事業を実施する。

○広陵町における地域公共交通の課題

- ・公共交通の機能充実
- ・鉄道とバスとの接続（駅までのアクセス強化）
- ・広陵元気号のルートと運行便数
- ・各公共交通サービスの充実
- ・公共交通の利用促進策の検討
- ・地域との協働による公共交通利用促進の取組

○主な協議会等開催状況

令和 4 年（2022 年）2 月 第 34 回広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・広陵町地域公共交通計画案について

令和 4 年（2022 年）3 月 第 35 回広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・パブリックコメント結果
- ・広陵町地域公共交通計画

令和 4 年（2022 年）6 月 第 37 回広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について
- ・広陵町地域公共交通利便増進計画策定業務スケジュールについて

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域公共交通確保維持事業	交通事業者	平成 28 年 (2016 年) 10 月以降	フ	広陵元気号の運行
地域公共交通調査事業（計画策定）	広陵町地域公共交通活性化協議会	令和 3 年度 (2021 年度)	策	広陵町地域公共交通計画策定
地域公共交通調査事業（計画策定）	広陵町地域公共交通活性化協議会	令和 4 年度 (2022 年度)	策	広陵町地域公共交通利便増進計画策定

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
公共交通基本計画推進支援事業（奈良県）	広陵町地域公共交通活性化協議会	令和 4 年度 (2022 年度)	広陵町地域公共交通利便増進計画の策定

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
広陵元気号ポイントカード制度	広陵町 交通事業者 民間事業者	平成 29 年 (2017 年) 11 月以降	町内の民間事業者と連携し、広陵元気号に乗車した方にポイントを付与し、20 回乗車すると協賛店舗（5 店舗）で粗品と交換できる制度を実施している。

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
なし		

4. 具体的取組に対する評価

○広陵元気号

広陵元気号は令和3年(2021年)10月から新たな運行ルート及びダイヤ改定を行い、運行をしている。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた令和2年(2020年)については、30,317人の利用だったが、令和3年には6.1%増の32,167人の利用となった。

MM(モビリティ・マネジメント、以下同じ。)については小学校でのバスの乗り方教室を授業形式で実施している(5校実施)。また、継続実施している広陵元気号ポイントカード事業(商業施設との連携)、広陵元気号標語募集(応募数326標語)、広陵元気塾でのMM(政策間連携)など独自の取組が利用に対する意識の醸成に繋がっているものと考えられる。

○広陵町地域公共交通計画策定

「広陵町地域公共交通網形成計画」が令和3年度(2021年度)に計画期間が終了したため、最終評価及び検証を行い、その結果を踏まえ、「広陵町地域公共交通計画」を策定した。

本計画では、既存の公共交通の維持・確保に加え、新たに病院の送迎バスや企業バスなどの地域の輸送資源及び自家用有償運送などの多様な移送手段との連携を図り、「～笑顔で出かけられるまち～」を将来像として掲げ、実現をめざすこととしている。

○路線バス

路線バスもコミュニティバスと同様に、収支状況が厳しいものとなっており、運行費補助をしている高田新家線及び高田イオンモール線も深刻な状況となっている。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
運行内容の周知及びバス利用に関する環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・バスロケーションシステム及び電子決済サービスの利用促進を行う。 ・運行事業者とともに地域へ出向き、MM等を実施する。 ・SNSなどを活用し、情報発信を行う。
運行費補助を行っている既存路線バスの利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県地域交通改善協議会の協議対象路線であることから、交通事業者だけではなく県とも連携し、利用促進に努める。

広陵町地域公共交通協議会（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>【地域公共交通調査事業（計画策定事業）】</p> <p>路線再編や利用促進、住民意見の反映など様々な取組は評価できる。</p> <p>しかし、実施した事業を羅列しているだけであり、事業に対する評価に対して言及が出来ていない。</p> <p>ネットワーク図の添付もないため、めざす公共交通体系ビジョンが視覚的に分かりづらい。</p> <p>【フィーダー系統確保維持費国庫補助金事業】</p> <p>目標・効果について、達成できなかったものの、事業実施の適切性については、評価できる。</p> <p>デジタル技術の活用を進め利便性の向上を図り、合わせて MM を実施する等</p>	<p>【地域公共交通調査事業（計画策定事業）】</p> <p>事業に対する評価に基づいて、当町の課題を明確にし、公共交通ネットワークの構築及び実施事業に反映している。</p> <p>また、交通計画策定に伴いネットワーク図を作成し（別添のとおり）、めざすべき将来像を位置づけている。</p> <p>【フィーダー系統確保維持費国庫補助金事業】</p> <p>更なる利用拡大のため、一部路線の再編を実施しており、引き続き、小学生（バスの乗り方教室実施）及び転入者（コミュニティバス時刻表配付）に MM を実施している。</p>	<p>【地域公共交通調査事業（計画策定事業）】</p> <p>交通計画に定めた実施事業については、「広陵町利増進計画」でより具現化するとともに、計画で定めた指標については、毎年、達成状況を確認する。</p> <p>【フィーダー系統確保維持費国庫補助金事業】</p> <p>事業年度ごとに事業評価を適切に実施した上で、継続して利用促進していくことにより持続可能な公共交通をめざしていく。また、導入を予定している自家用有償運送に AI 予約</p>

し、利用促進に努められた い。		システムを搭載するなど、 デジタル技術の活用につ いても推し進めて行く。
--------------------	--	--

2. アピールポイント、特に工夫した点など

・広陵元気号の運行については、前年度から新型コロナウイルス感染拡大の影響による、利用減もあるが、南部支線の近鉄大和高田駅までの利用者が令和元年（2019年）10月の再編後、大幅に減少したため、令和2年（2020年）8月に実施した広陵元気号利用者アンケートの結果や、過去の利用実績を踏まえ、近鉄大和高田駅発着便の増便など、令和3年（2021年）10月から、南部支線の再編を実施した。

その際、ダイヤ及びルートの確定に際し、利用者ニーズに即した運行内容となるよう、沿線住民への説明及び意見交換を実施した。

・令和3年度（2021年度）中には、当該年度をもって期間が終了となる「広陵町地域公共交通網形成計画」の最終評価及び検証を行い、多様化・高度化する住民ニーズや社会情勢に鑑みた公共交通のあり方を検討し、「広陵町地域公共交通計画」を策定した。

受託事業者の選定や、業者との打合せなどにオンライン会議（Zoomなど）を活用し、事業の円滑化を図った。

・車内消毒・抗菌加工の実施、電子決済サービス（PayPay）及びバスロケーションシステムを導入し、多様化する利用者のニーズに答えている。

(別添)

公共交通ネットワークイメージ図

